

復寫

明治二十九年八月十日
外務省
外務省大臣官房
秘書官
横山三三三
様

黄学博
鴨居江下流河
及浮島二実三件

本件ニ関シ 副理官官下ニ
写シ通リ 勸業院長府
及具送ニ宜ク
明治二十九年八月十日

外務省
同部
長官

外務省大臣官房

外務省

黄子坪可敷之實運之鴨保江
下流河川之情况及沿岸之農業
等事申す件

本件ニ関シ本年四月九日附及あり官附各機
密ニ行リ以テ黄子坪前葦草等事等事等事
並ニ將其ノ経営方針等事及前年置置
亦其ノ所管ニ以テ之ヲ可アリ之ヲ振テ其力ニ使テ之
京駁禁云使ニ迫テ可アリ之ヲ振テ其力ニ使テ之
理由等ノ之ヲ推シテ下ヲ可アリ之ヲ振テ其力ニ使テ之
ふ之ヲ以テ積極的ニ其案示シテ其力ニ使テ之
ノ場合ニ迫ルニ計ラセテ其力ニ使テ之

外務省

以上申すノ事等 判事ニ據シ 不承取置見及本年
置置ノ最近係此等事等 領事トシテ 小官等以
務之長家城等事等 領事トシテ 小官等以
道等事等 領事トシテ 小官等以
地ニ就テ調査シテ 該島及 各島嶼ノ状況ヲ詳
知スルニ必要ヲ感スルハ 以テ 本年七月 野口兼任
原ニ命ジテ 山田技子工藤通次ヲ使向ニ 並ニ
黄子坪河川等ニ 探観シテ 其ノ 部人柴田 麟
次郎及 小島河一進等 支那長官 松本等ヲ事
同ニテ 下流河川等ニ 至リ 遠觀シテ 實地ニ就テ 其
情况 調査シテ 其ノ 結果ニ 對シテ 小官等 本年十月
八日 材料等ヲ 提出シ 其ノ 結果ニ 對シテ 完全ニ 独
立物ト 思惟シ 其ノ 結果ニ 對シテ 小官等 本年十月

ニ対スル事案ニ就テハ果シテ海軍ヲ要スルモノナリ
以テ海軍省ニ付テハ黄子作可懸ト要連ニテ柳
子作ニ付テハ幸後トナサレトスル事向テハ
ニ有之ニ付テハ前頭調査ニ復テニ是等ノ別紙
ノ圖ヲ状況及案ノ二般ニシテ持来シテ海軍ノ方針
等詳細及具申スル事ニ付テハ海軍省ノ上向ニテ
之向テ相成ル様致度何テ此段申進スル事
可成ル事ナリ

新義州理事官廳
副理事官岡部三郎

統監府

外務省

總務長官藤原定夫殿

承テカテ官廳ニ為ル事ナリ付テハ外務省
及及駐在公使ニ付テハ各道及道官等
百為信任テ申進スル事

復寫

鴨綠江下流河澳ノ状況及經營案

状況

柳子河

柳子河光城而前而多河成河甲乙云云之流液
頭前而多鴨綠江江心橋之島嶼之柳
子河上河ノ柳子河大流之柳子河ノ柳子河
島ノ形状ハ南ハ長ク東西狹ク別河階爲其類
河一平ノ一地圖ニ於テ示スル之ヲニ大河ニ云
コトヲ得共大ニテ大柳子河ト云コトヲ小柳子
河ト云ク乾潮時ニテハ兩河相連シ滿潮時
ニテハ兩河ノ水以テ大柳子河ニ舟楫ヲ行テ通
スルニテ大河ノ清者ニ接シ相離約ハ所ニテ河
ハ柳子河ニ近ク約六河ノ距離ヲ有ク此兩河ト綿

外務省

岩ノ古ハ水流淺ク流船年ハ帆船ノ大ニモ皆清
岩ト古ヲ通シトイフ

甲、古柳子河

一、地積

南約十八河東西約九丁遼東ハ雜草茂生シ
河澤ニ舟ニテ潮水流流管ニ流シテ堤防ノ
シ堤防以内ハ全ク良田ノ田島ニテ水害ノ憂
ニ耕地ヲ神國ノ美法ニ倣テ數コハ五百畝六
斗位ニテ凡ハ概カ而ル四河歩ヲ數フニ内水田
約八十之可歩畠地約百一河歩堤防約十河歩
河澤雜草ノ區域ハ此數ニ倍入ル

一、堤防

河内東西南北行橋ニ不規則ニ成多畝部ノ

對其四斗三升二萬二千八周圍ノ面積ヲ云フ
此計多クハ韓人ノ言頭ニ要領ヲ得テ詳細ノ調
査ハ後日ニ豫ルルコト

一韓人船名ノ起初

韓人ノ始メテ此島ニ船名セシハ光武四年陸ニ上
本洲ニ出テテ博羅セルモノト云フ

一書房

寺小屋式ノ學校下リモ後ニ名ヲ收容教育ノ日本
語一科者深ク中編入シ居ル

一漢業

漢夫トシテ漢ノ漢種ノ管業トスル此島ニシテ農
夫カ已ノ食料ヲ供スル目的トシテ水菓^{朝鮮}白菓
ボリノ類ヲ採スル事ヲスル漢物ニ亦テ陰曆ニ

外務省

月及月頃ノミシテサ他ハ積利ナシトイフ

一税金ノ要領

税金ハ韓國稅法ニ依ルル分備ノ由ニテ新舊地
凡ク三斗ヲ經テ多クテ納稅ス由テ税金金洞
長ヲ取扱ニテ稅務所ニ納金スルコトイフ

一大柳葉樹ト一進會

近頃ニ進會ハ大柳葉樹ノ上流ノ部ニシテ米元
整ノ地ニ指ラザル現在地所ニテヤリヨリ中ナ
リ又兩積約令島ノ之ニテヤリヨリ

評論

鴨綠江心ニ據リタル島地ノ數ニシテ能ハル此島
ノ如ク農業機關ノ以テ海運ヲ得ル他
ニ比テシテ他ノ島ニ比テシテ是ノ

ハ小柳多坪ニ清公人越込邊大者以敷名ヲ
吉天將軍ニ乞フテ増照即チ沼地ノ地券ヲ領
有シテ下沼ヲ石ニ地券而シテ裁キ而積ニ積ニ
十一畝ノミヨリ也ニ概見スルニ別ニ藪葦ノ
繁キ所生キテ多ク雜草ト乱殖スルヲ見ルノミ
柳多坪内清公兩必写ノ年ニ係ルル即チ
此小柳多坪ナリ。

一規立畧耕ノ有程

視察自多小柳多坪ニテ檢シテ巡回セシ際半
途停子跡ノ堤防ノ附近ニ行方清公ノ名畧
耕ノ跡ヲ見テ見テ何ノ事何ノ事ヨリ來ル何人
ノ許可ヲ得テ耕作ニ從事セリ乎ヲ問フ彼レ
答ルトヒテ答テ曰ク此沙ハ元ト佛人ノ有ミテ

外務省

小人等ハ佛人由金華(漢書西域傳)トモト契約シ
製作物ヲ獲テ曉シテ一歩ノ利答ツル所スルノ
所極テ下答テ畧小序ニ付ルニ二軒アリトモ彼
等ハ此等ニ依居セズ清公六道滿テ毎日本
耕ニ居ル下沼ヲ耕地ニ願ハ不惣理ニテ雜草
乱生極ニ高深ノ對テ種植ニ居ルニ過キ此
耕作ニ終ラシ居ル佛人ノ果シテ佛人ト契約シ
或ハ佛人ノ許可ヲ得テ本河セキルカヤヤハ
頗ル疑問ナク彼カ視察自ノ實ニ對シ積
ヤ恐惶ノ態カヲ以テ答ハルル何リテ察セズ
黃多坪

一概説

從來每冬ニ終年ヲ起シ殊ノ節冬ノ以本清

神而心人氏百之葛了十中父給年ヲ藤了らハ即
千此河ミミ目下台河葭葦 船家茂 殆ト下是ヲ
容ルル地ナシ

一 地勢及面積

神宮龍岩浦ノ上流清岩安戸山ノ南面ニ横
ニ一大河ミシテ神宮ノ距ハ約十七町法峯ハ
約八丁東西延長約一甲寸五町七寸ハ約廿二
町面積約千八百寸ナリト云アリ以上諸島ノ割
リ出シハ目測ニ依ルモノト云ハ多少ノ相違アリハ勿論
ノコト河ノ上流ノ部ハ地勢高ク下流ヲ低ク
為東河ノ下流ニ向テ漸次極漲スルノ勢アリ
一 地味

地味ニ米田葦圃法般ノ植物ニ適スルナリ但シ

外務省

地味ノ方感ニ依リテ向テ高者ノ区別アリト想ヒ
上流高地ノ部ハミシラニテ葭葦ノ長丈ニシテ
下流ノ低地ニシテミシラニテ短小ナリ

一 河下流神人ノ關係

河下流及柳葦林ニ對テ清神人ノ係年ノ關係及
法神ノあり、交際ノ關係等ハ日本ノ歴史の記
述ニ別ニ一冊ニ當テテ所存書ヲ以テトシテ考査
ニ備フルルヲ望ム

一 係年ノ關係

昨冬以テ本河葭葦利取ノ實ニ清神ノあり
人ノ係年ノ事ハ件ハ尙待巴ニシテトシテ上流ニ稟
敷致シ置キタルカモ其ノ後神人ノ河河假令清
人ノ驅逐シテ十八軒ニ區劃シ敷セハ葦ノ生ハ

及了紳人ノ存居ヤ不トテ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
レ別書子カ存居ヤ不トテ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
リ現生ニ付シ五六名ノ紳人カ見廻リテ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
ル

一華子ノ取人丈ノ性質

本河ニ存居ヤ不トテ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
定ノ別時期下テ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
時ニ後河ニ入りテ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
時々山東ノ流紙ニ雇入リテ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
ミテ河河ノ華子株ノ株ニ称スルニ取得ノ契
約ヲテシ合人ニテ多クハ四書子ガ已ニカク取テ

左ノ目下他書ハ若業ノ行書ニ暇隙ナキハ決河
カ華子ニ生長ノ時期ニテ直接河河ノ書ノ用

外務省

稿キヨリ自然紳人ノ占領ニ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
モ冬ノ季華子ノ上懸ノ際ニテ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
ミテ何書カノ終年ヲ起スニトテ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
一河河ノ清紳人ノ要係

本項ノ要問題ハ別項ニ於テ既述シタルカ如ク別
ニ一毎トテ具報スルニ此レモ一書子ノ要係ニシテ
若クハ別河河ノ事ニ於テ別書セシニ河河ノ
清紳人ノ終年ノ源由ハ清人カ河河ノ華子株ノ株
クテハ終年ノ事ニテ清人ノ書ノ華子株ノ株
要シテ一株式ヲ存居ヤ不トテ多クハ四書子ガ已ニカク取テ
下リ而シテ一株ノ株名ニシテ權利ヲ有スルニ等アリ
テ合計シテ四名ノ成リサ株名ノ事ニテ居居
地ニヤルル

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|
| 安眠山 | 孫景奎 | 大孤山 | 王壽山 | 鳳凰城 | 李思溥 | 大孤山 | 蔡寧山 | 大孤山 | 孫樂賓 | 大東海 | 王漢章 | 大孤山 | 洪壽春 | 大孤山 | 瞿某 | 崇明軒 | 姜某 | 外務省 |
| 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 | 令 |

以上各前通、通、標、等、を、其、内、内、内、一、
 株、内、内、内、内、内、内、内、内、内、内、内、
 十四名、多、多、多、多、多、多、多、多、多、多、多、
 付、付、付、付、付、付、付、付、付、付、付、
 兩、兩、兩、兩、兩、兩、兩、兩、兩、兩、兩、
 八、八、八、八、八、八、八、八、八、八、八、
 收、獲、年、額、約、二、万、兩、其、中、由、佛、人、所、領、之、其、一、
 北、一、系、係、額、之、傳、之、行、年、每、年、每、年、每、年、每、年、
 二、及、其、他、之、政、府、之、之、之、之、之、之、之、之、
 二、及、其、他、之、政、府、之、之、之、之、之、之、之、之、
 神、人、之、奪、取、之、之、之、之、之、之、之、之、
 神、中、之、見、之、通、之、

160,000
500,000
300

新島

一 地勢及面積

新島の清人より種子島と呼び清岸より距ハ約一里半大東港ノ東方新岸より距ハ約三里半地即チ流石停泊場ノ西方鴨居江ノ河口ニ尤モ一島ナリ南ハ目黒川ニ於テ五所東西約十七町面積五百拾町歩内畑地田地合々約四百五十町歩山間未開地約四百五十町歩あり而シテ本島周圍ノ在方ノ野舎ハ皆河沙地ニ此計ハ莫クハナリ

一 人口

戸數百軒、人口百二十年内男四百名女四百二十名ニシテ皆宗族的主者ノ形勢ヲ成ヤリ

一 島政

新島西長リトシ東南西泊々長アリテ島政ニ目ハ

一 学校

尚義学校ト名ス一校アリ生徒十五名ヲ收メ小學校者ヲ校子トマルカ日本語モ其者一課ニシテ日カ語ヲ解ス者有リ

一 農産

桑、稷、大豆、粟、小頭麦等ナルモシテ米モ少量ヲ收穫スモ全取ラズトシテハ不足ナリトシテ年々他方新入スル者ヲ核分ニ陰曆四月頃ニシテ收穫ハ八月下旬トス天候降雨少ク早稲多シ然レモ早稲ノ多ク農ヲ害スルナリ時々悪風起リテ農作ヲ害スルナリ

一 漁業

島中流出の... 採りて... 減か...
一、漢業

疆域ヲ大京トシ他方ハ... 時ハ... 道計... 田... 船...

修程一日... 川稅務官... 賄賂...

冬季... 外務省

神人... 不島... 深ナリ... 人ノ... 敷... 少... 見... 一、新島... 法...

不島、故老の言に依り、最初清人の所居を以て
 下りて隨て清語を以て所居を以て呼ばれりしを
 清和乾隆帝廢年、可於て清語を以て海賊カ獲
 子島に竄入して利居を棄けり、及ぶに、當時
 の相辭必り、制械先的、清語を以て、打
 撃し、獲りて子島に對し、清語を以て、其、
 界より、越て、清島に侵入る、可なり、其、
 告ふら、出せし、清島、以て、相辭、所
 爲に、掃、不、し、清島、及、其、島、獲り得
 べき、是、係、傳、之、爲、受、た、能、不、平、文、書、於、別
 所、附、爲、書、茅、茅、之、平、通、り、可、し、其、係、傳、島、氏、ハ
 法、各、系、文、ト、其、係、文、ト、別、所、附、爲、書、
 寫、り、通、り、幅、一、尺、五、寸、許、り、長、四、尺、許、り、

外務省

板本に刻記して、此、島、所、在、り、珍、藏、し、居、り、
 り、其、係、傳、板、本、ハ、全、島、東、部、洞、名、系、傳、と、
 定、ま、り、

一盤城列島、漢業

平島、道、沿、者、盤、城、列、島、附、近、一、帯、ノ、漢、業、間
 題、之、點、ヲ、以、此、次、漢、業、の、身、等、カ、漢、業、目、的、ノ、一
 々、之、其、係、傳、等、ノ、口、實、ヲ、以、テ、其、カ、
 其人、其、他、中、件、ノ、漢、業、之、行、キ、セ、キ、
 等、之、點、ヲ、以、テ、漢、業、ノ、所、在、地、ハ、
 漢、業、ノ、初、年、ノ、漢、業、ノ、所、在、地、ハ、
 大、初、年、ノ、清、人、ノ、獲、船、之、後、能、キ、
 リ、該、島、附、近、及、其、島、道、沿、者、一、帯、
 漢、獲、者、多、ク、年、々、同、日、十、月、迄、

トシ此物等ハ往々漢船ニ行キテ其情ハ我克
船ハ六百隻以上ニシテ此等漢船ニ至リテ
富大孤山及大東海附近ヨリ東ニシテ漢獲
ヤシ類ハ之ヲ乾物トシ安東及北平等ノ他山
東ノ各々ノ口者ニ輸入シ支那料理ノ材料ニ
供スルモノナリト云フ又ハ朔ノ漢獲最モ多キ所ハ洪
山口ヨリ安東海峽ヨリシテ清江浦ニ雜貨及塩等
ヲ積ミテ東ヨリ朝鮮人及北平商人ニ賣却スルカ或ハ
物々交換ヲナス下 頗ル盛ニ也トカ朝鮮政府
ハ此等獲物ニ對シ河等崩壊等ハ取清法ヲ
滿ルニ由リテ其等ノ部或ハ度々部ヨリ換
取券多ク入ルモノト云フ一様ノ清貨ヨリ業ト
シテ一隻對シ五十四ノ税ヲ徴ルハ其モ要スルニ

外 務 省

名義ナクハ可越シテ實收ノ之ヲ伴ヤルニ云フ迄ニ
ナキニトハ忽ルハ
又大カ刀等ノ漢獲盛ニカ此等ノ清江浦ヨリ
ヲ運ビテ中流以下ノ常ノ食ニ供スル下 最モ多
ク頗ル盛ニ賤路ニ度々モ入ルカ以テ亦清江浦漢船
ニ利益ヲ製利スルニ任ズル其ノ密航船數
甚多ク年々千五百隻ノ至二千余隻ト上ルナリ
然レハ此等ノ漢船ノ漢獲區域ハ安東沖七八
里大島附近ノ所ニシテ其ノ支那權カ充
トシテ其ノ所ナリト云フ其ノ所ニシテ海稅スル
ニ於テ山方面ニ於テハ蝦夷ニ對スルカ充ルニ由
リテ其ノ密航船下ヨリ其ノ由ニシテ又ハ此等漢
船ノ南方面ヨリ其ノ多クトナリト云フ其ノ由ニシテ

島方而より来ると云々漢如く六リヨリ十有之云々
 一身彌島及附近ノ島嶼ニ於テ人水禽ニ産卵
 身彌島及附近ノ島嶼ニ於テ海水ノ下ニ係
 在リテ淡衝ニ水去其地ニ深層小ノ島等ノ多
 クアリ水鳥ニ産卵ニ於テ天然ノ形勝ヲ
 之ニ毎ノ年鴨雁等々ノ水禽ハ居ル同島ニ
 集ルニ産卵ニ於テ莫大ニシテ土砂ヲ浚掘スレ
 ば地皆卵ニシテ産ト云々ハ其地ニ於テ
 此亦云々清人韓人入りテ其地ニ日中人を入
 レルニ昔ニ乱採シ何等ノ利益ヲ得来島數
 ノ減少ヲ来スルニ恐ニアラト謂フ

外務省

案

柳堂評

柳堂評ニ対スル思案一可送トシテ焦眉ノ漢求ラ
要スル前題状況ヲ叙シテ叙述セラル又ソ別
任附録書分ニ年清韓文海書表中ニ見
ズカケル大柳堂評ハ韓人ニ其分有リ実ラ
異ナク年トシテ初カク方々ニ差ホリ作り居シ
トモ小柳堂評ニ寄リテ事ノ情大ニ異ナリ
韓人ニ此分有リテ其ラ格ハ居ハス分有
リル年何書表記ナキトモ之ニ附随ス
ヘテ何書ノ施設ナキニ換ハ清人例ニ依リテ
ニ角道巻或ハ將軍ノ如書ノ交付ヲ以テ
又ノ書表ニ対シテ通判トシテアリス実ラ

外 務 省

認めニ寄リテケル場合百々之ヲ放棄シ置ク
時ニテ之ニ此分有リテ其ラ格ハ居ハス分有
清正取存ハ柳堂評迄モ同様ニ事ノ情大ニ
中ニ書表通判トシテ居ハス分有リテ
小官ナリトテ可ク之ニ書表通判トシテ
ト新人業白辭次郎トシテ進会シテ別件附
原書分有リテ通判トシテ居ハス分有リテ
之ヲ擴張セシメ小柳堂評ハ勿論トモ案ニ
相ノ通判トシテ各事業ニ其共白経管範
固ニ入レシムルニ就中ハ柳堂評ハ其範
ヲ越ヘテ書表通判トシテ居ハス分有リテ
ニ於テハ柳堂評ハ既來ノ利権ヲ回復スル
目下ノ急務ナリ然レモ小柳堂評ハ此分

黄草坪

今回得た廳負ヲ派遣シテ調査セシムルニ要
目的地黄草坪ノヤ全島防葦ノ以テ掩
ハシ路ニト立錐ノ地ナリ内部ノ情形ハ先
ニ調査スルニ便ナラザリトシテ大體ニ於テ専門技手カ調
査ニ依リ地味葦ノ業ニ適スルヤ否ニヤ、向後ハ已ニ状
況ノ新ニ於テ叙述セシ通リトカ今ノ本島經營
ニ對スルニ案アリ

第一案

大畧組織ヲ以テ全島ヲ積極的ニ開發スルニ

第二案

小規模ニ開發スル計、徐ニ韓人ヲ移住スルニ
テ之ニ案

外務省

重要ノ收入ノ基礎ヲ葦業ニ置キ清韓兩國
利益均分ニ妥セシ爲、本島ヲ割割シテ各々
一半ヲ領有スルニ案

第三案

抑々黄草坪カ活佛ナリトシテ年々點々大原因カ
葦業ノ利益ニ及ラズ以テ此禍根ヲ絶ツルニ
清韓人カ島ノ生命トシテ持テ所ノ葦根ヲ絶ツ
存スルニテ全島ノ葦根ヲ掘リ起シ全島葦業
地ニ開發スルニテ第一案ノ主眼トス此案遂ニ一
スル専門家ノ設計ヲ欲セシ別函アリ今ノ時
書、通リニ採ル設計ヲ書ラシメテ後設計書中
ノ第一設計ヲ以テ大畧組織ノ積極的ニ開發
ニ依リシニ經營能ク、多クニ成テ見込ニテ

ハコト申ニ者三ノ設計ノ通リ移テ小規模ノ計画
ヲ至ルルハ何レモ也 收支相償アリ見込立々人
キトト假定スルテ得ル事 宜上著手セント
スル 曉ニ至リテ事大ニ困難ヲ感スル 鶴玉財分
可程 未決前ニ於テ大資本ヲ 投シテ期ル事
業ニ安心スル事 出資得ル事 亦ハ一ノ難事
シテ又、設計者ハ水防ノ要領ヲ先トシ 研究
スル 暇ナク 堤防ハ軍ニ上部ノ 浸水ヲ防クヲ
目的トせんモノナリ 水半流下ニ於テハ 潮流ノ地盤
ヲ洗テテ水底ノ濁カト部ノ土塊 壞崩シ来リ
テ恐レテコトニ先テ 研究材料ヲ提供スル事
能ハサルハ才ニ難事ナリ 想フニ才一ノ難事ナリ切
リ抜ケニ 領土所屬未決前ニ 中島ヲ望ミ大資本

外務省

ナラ投スル 絶対的不可能ナリトセハ 近ナリト若
シ 渡中ヲ投スルアト 假定シ 領土可致ニ對
スル 対象ハ 唯々 戦力カシクテ 遂行シ 済ム
政府ニシテ 何等 容喝セシム 決心シテ 當ラ
ザルカラスル 事 根ハ 多少 清國 細ク 權利
ヲ認メテ 領土所屬ニ對シ 拒介物トシ 其後ハ
或ハ 全部ヲ 譲渡スルニ 還付スルニ 依リ 決シテ 取
リ 移植ヲ 要求シ 願フ 事 強ク 附會ノ 後 滿洲ニ
テ 清國 政府ノ 主張ヲ 膠着スルニ 覚悟ヲ 要ス
ルニト 勿論 ナリトス 將又 才ニ 難事ニ 對シ 其 就 案
浦ノ 浦海軍 少佐、 経験 凡 諸語ニ 依リ 著 著
押ノ 韓 少 尉、 船 艇 研究、 水深 部ニ あり 居ル
等 水底 部カ 案、 潮流ニ 洗シテ 毎年ニ 三 間

多手ハ五六百ト上而ト上懐崩壊スルノ例ナラズル水
 底部ノ福根ヲ防遏セザルハ洪水令上長ニ堤防ヲ
 築キテトテ堤防共ニ壊崩スルノ憂アリト云フ
 事ヲ四ノ設計ヲ立テシ山田収年ノ言ヲ所ニ依リテ
 湖水ノ劇激部トノ突角ニ修復スル獲先工
 事ヲ施セハ水勢ヲ一変スル事ヲ得テ以テ是ノ水キ
 大ニ懐崩ヲ見ル事ナカニト云フ存リ然レバ堤
 等ノ要係ハ尙多クノ時白ヲ帶シテ精査スルハ
 非ニ決定スル難ク要スル一ノ案ハ以上ノ二大
 難案アラス更ニ精確スル事ヲ調査トシ
 有テ裁決ヲ待テ好メテ定メテ事ヲ成スル事ナ
 リ

外務省

本案ニ対シテハ別紙覽設計書中ノカニ及
 口切之設計ヨリ更ニ下リテ柴田対テ進言ノ現
 有契約範圍ニ於テ是ノ小規模ニ島ノ新
 築ニ要スル事ヲ徐々ト補入ノ移植ヲ計リ以テ
 領土問題ヲ解決スル材料ノ一助ニ供スルコト
 本案ハ近々ノ事ナラズ設計書ニテ居リ目
 毛設計書中ノカニ及カニ之ニ依ルトヤル事ナ
 昔ノ増額ノ要求スル事ヲ多ク為シ及ツサハキ
 柴田対テ進言ノ現有契約範圍ニ於テ屬シ
 元トトハ領土問題ノ事業ナラズ
 本三案
 本案ハ要スル一ノ二ニ多ク案ノ秘備案トシテ
 提供スル事ナリ即チ一ノ二ニ案ヲ充テ成

五ノ一運ニ至ルニ内ニ彼奴外ニ父ト云係リ已ニ
ナリ活ニ必ニ付ニテ一歩ヲ像ラズレカカサレ
像ニ如島ヲ割割シテ清掃スル必ク其ノ一歩
ヲ領カサレカカサレ際ニ利益ノ根底ヲ設キ
ノ上ニ置キ別紙附添書片ニテ其ノ二地圖
ヲ示シ示カレカ島ノ中寫ヲ撰流スル小流ヲ
中心トシテ割スルニ至ルモ如島ノ下流ノ一部
ハ清シク了於言ニ念テ掃クニ奪ヒ去ラズル
ノ即チ掃クノ所方ナリトシテ計較スルハ我カ所
得ハ著シク減小セラシタルノ感アリトシテ
品位ノ優劣モ此流ノ位ニ部ハシテ其ノ
輩ハ品位優劣ニテ下流ノ部ハシテ其ノ
ハ品位劣等ニテ其ノ部ハシテ其ノ

外務省

頭ニ上リ曉モアハハ割区域ノ中心小流以上ニ擴張
スルニテ其ノ流スルニ於テ其ノ理由アリト信スル
スルニ如象ハ例ニ流備置トシテ其ノ流スルニ
於テ其ノ流スルニ於テ其ノ流スルニ於テ其ノ流
難ク其ノ流スルニ於テ其ノ流スルニ於テ其ノ流
ノ上ニ置キ別紙附添書片ニテ其ノ二地圖
案ニシテ其ノ流スルニ於テ其ノ流スルニ於テ其ノ流
コトヲ得ハ將來流島ニ連続シテ其ノ流スルニ於テ
シテ其ノ流スルニ於テ其ノ流スルニ於テ其ノ流
ニ其ノ流スルニ於テ其ノ流スルニ於テ其ノ流
下流ニ置カレカ島ノ中寫ヲ撰流スル小流ヲ
以上其ノ流スルニ於テ其ノ流スルニ於テ其ノ流
會ハ其ノ流スルニ於テ其ノ流スルニ於テ其ノ流

以上三案、範圍ヲ限スニナカレキ付特ニ其
列叙せん

葦島

葦島ニ對シテハ、今日ニ韓人ノ移住充分ナリ
以テ計畫スル所ナシキニ付、葦島ノ周圍ニ陸
起ル泥分、黄ソコ坪一帯ヲ以テ、葦島ノ植
付テ葦島ニ一廣大ナル葦島ヲ修製スルハ有利
ノ事業ナリト信ス想フニ、葦島ハ大東海ヲ距ル頗
近ク、呼ハレ將、鷹ノヒトスルノ形勝ニ在リ而シテ大
東海ニ臨ミ、午々山東海峽及大孤山、冥東祖傳地
内等ニ輸出スル葦草ハ、年額二十萬兩以上ナリト
云フハ、葦草ノ利益ニ、葦島ノ葦草ノ利益ノ可觀ニ
決シテ等閑ナラズトス

外務省

盤城列島ノ漢業

盤城列島漢業ノ經ニ、漢ニシテハ、北邊ノ部ニ於テ、其
大略ヲ概記せんカ、如ク、日本ノ形勢ハ、今日清人ノ力
メ、利登ラ、整制セリト居ルニ、必ズ之ヲ挽回スル
方法ヲ講ズルハ、頗ル困難ニシテ、要スルニ

- 一、經濟的ニ、清人ノ移住ヲ排斥シ、其ノ部
ヲ善クシテ、之ヲ日韓合向ノ事業ニ、回收スルニト
- 二、清韓合向ノ善クシテ、日清韓之互ニ在ル地位ヲ
起シテ、海利ノ均分ヲ圖ルニト

以上三條ノ方法ヲ講ズルニ、他ノ良案ナキニ付、
第一案ニ對シテハ、
聖實ノ日韓漢業、但合ラ、經濟ニ、前對漢業
ノ利益ヲ得ルニ、經濟的ニ、清人ノ移住ヲ排斥

りいしは、つとに、字アリ、遠サハ、困難、五、作業、す、上、

鳥卵保護法

状況、未、以、行、予、叙述、を、以、身、際、鳥、卵、近、之、事、行、予、
ハ、鳥、卵、乱、採、ヲ、免、え、情、勢、ハ、近、之、鴨、保、護、ハ、一、名、者、
タ、水、禽、ノ、根、成、ヲ、危、殆、ニ、陥、サ、ル、ト、ハ、以、ア、レ、何、
等、カ、ノ、方、法、ヲ、設、テ、特、定、人、ヲ、以、テ、採、取、ノ、数、量、ヲ、制、
限、ス、ル、ノ、必、要、ア、ル、ト、信、ス、

以上、野、禽、列、島、ノ、漁、業、ノ、延、及、鳥、卵、保、護、法、
ハ、視、察、員、等、カ、字、地、ニ、配、テ、調、査、ヲ、遂、行、ス、ル、
ニ、テ、サ、レ、ラ、ル、事、ヲ、以、テ、此、ノ、特、別、任、務、ヲ、附、与、ス、
況、亦、其、他、ノ、漁、業、ニ、テ、精、細、ニ、調、査、ヲ、遂、行、ス、ル、
ノ、必、要、ア、ル、ハ、勿、論、ナ、ル、事、ニ、對、シ、大、ニ、注、意、シ、
テ、其、他、ノ、漁、業、ニ、對、シ、特、定、人、ノ、採、取、ノ、数、量、ヲ、
制、限、ス、ル、ノ、必、要、ア、ル、ト、信、ス、

外務省

採、取、ノ、法、ハ、鴨、保、護、法、ニ、於、テ、一、年、間、一、ラ、期、ス、ル、
ニ、限、ス、ル、ト、信、ス、

結果

以上、鳥、卵、ノ、採、取、ニ、テ、因、傷、ニ、遠、サ、リ、ス、ル、事、ヲ、得、ハ、
少、ク、モ、其、他、ノ、漁、業、ノ、延、及、鴨、保、護、法、下、流、ニ、對、シ、
國、際、河、川、上、ノ、利、權、ハ、先、之、我、ニ、回、收、ス、ル、事、ヲ、得、
タ、ル、事、ト、見、テ、其、他、ノ、漁、業、ニ、對、シ、特、別、任、務、ヲ、附、与、
ス、ル、事、ヲ、以、テ、其、他、ノ、漁、業、ニ、對、シ、特、定、人、ノ、採、取、
ノ、数、量、ヲ、制、限、ス、ル、ノ、必、要、ア、ル、ト、信、ス、

初以附屬習方之千一

啓文

禮部為申知禁濬以清邊界事奉旨清吏司票旨准朝鮮國王
咨稱乾隆二十六年六月據忠清道觀察使李善赫馳啓平新鎮下
陸侵擾湖元浦等軍四人令行至國於照例答回清據報至七月
黃海道觀察使尹得和馳啓異旗船六隻檢入吾我鎮險留不去
矣使秦應會率領跟役叫他回云伊乃悍然不動各船人夥四而
餘名一切跑下會之因匪亂推交下氏丁度哲碩林昂壁之雷
下殺死會使僅逃性命案夥始乃親服軍帆向四司洋度等因
竊照以前在康熙五十二年平都清禁朝鮮行舟事

旨朝鮮邊界之虞偷生捕魚者早已禁止今仍違禁妄行八九
隻之船會集出海初解漁採此即係盜賊矣嗣後此事以初解漁採
者若伊國即行追會殺戮生擒者仍速解送勿因天朝之人遂

外務省

據違疑欽此再康熙六十二年十一月平都楊三等漢採凱
風一案奉

旨嗣後無票文專乃令官事者初解即照律懲治亦皆遵
奉朕之所行並以此初將方必之人初行治罪如此匪類人等方
知畏懼妻行之人便亦欽此洪惟

聖旨前後輕念小初凡有漢採生事者許令初殺治亦皆
另飭該管官凍邊防法然有難便者屆滿之於

上國或小有截雖是好聞之後知為

上國或人則自不敢容易動手及下陸生事雖不免畧有拘
阻者有票無票不允憑駭經用初殺處對遠慎往手抗爭被
初推殺而返樽初殺一無追會如微初定之另飭近海各示備
察念密就將

旨內事意通行告示終亦無下如有敢冀平初備將好究

復寫

寫

聞我教書之屬轉奏

天聰四降指揮等因前來查朝鮮國塔內林胡元浦等四十四人採菓霸劫海境舵工被溺失票等語應將胡浦元等四十四人俟鳳凰城解送度日飭差派將船凡失票並有無侵擾情節逐一查明另行轉遞至吾我報船隻既無始名居址是此內地人亦未有確據但此等妄行生事之人既無票文且既無事後影密行究該必王即應遵奉前降

諭旨嚴拿懲治以儆刁頑毋庸再為陳奏除中朝行文叨候及近海各該地方衙門嚴行緝捕獲日按律治罪並將前降也諭旨行令各該地方備行告示嚴加禁約以相應知照該國王可也為此合咨前來查照施行須至咨者

右 咨

朝鮮國王

外 務 省

乾隆三年九月二十八日

別紙附録書券の件訳文

契約証

就岩浦對面鴨居江心橋の葦原黄子
様(支那人)等と大橋(支那人)等との
柴田麟太郎、稀小一進、会下契約するに
由り

復寫

一、日人柴田麟太郎、黄子様經營の優先者
たるに、經營方針、利益、主權
の權利ヲ保留するに、一進、会下契約するに
由り、一進、会下、條件、經營、加入
柴田、正業、方針、協議、条、與、權利
ヲ保留するに、柴田、稀、之、河、保、
一、柴田、此、迄、已、經營、一、端、結、了、四、回、復

外務省

今、入、入、セ、シ、テ、是、レ、何、レ、ニ、復、復、
ノ、一、見、向、一、進、會、の、柴、田、の、出、資、額、二、倍
シ、出、資、する、こと、
一、葦原、子、の、取、扱、黄、子、様、満、面、及、以、外、の、
漢、字、並、水、田、の、取、扱、下、漢、字、材、檢、收
等、の、漢、字、經營、事、業、の、取、扱、
此、等、の、業、の、取、扱、方、法、に、異、な、る、別、の、規、約、
制定、の、官、府、の、認、可、を、受、け、
一、右、經營、に、必、要、と、し、た、水、田、の、取、扱、の、
一、進、會、に、於、て、稀、小、の、移、植、を、
一、黄、子、の、經營、の、取、扱、の、格、利、及、物、件、の、
取、扱、の、名、義、を、以、て、他、人、に、讓、與、又、は、担
保、の、目的、を、以、て、な、す、こと、
保、す、

第3門

支人書

次及

機密 受第2114號

明治四十年八月九日接受

官政務部

機密公信第三三號

北島早坪問題の調査意見上申

生 野

本問題の調査は本年六月十五日付機密公九號にて駐清防部代理公使より思見上申の致し有候に依りて示し接し付新義州理事の駐見の現地に出張せし為念馬下實際の事情及地勢を守見見せし種々考見奉り未だ一通り思見上申法は

北島早坪問題の現状

昨冬早坪奪取の目的を以て早坪子の過取報告通り道に口小官の協力を以て早坪清西國人を代表者に出し残存の早坪子の別部を早坪部と終り今以て本年の早坪子の調査を以て全島を掩り

自島内清西國人の人は小屋十八軒あり昨冬早坪奪取以前は清西國人の支約或る餘名之に住居せし早坪奪取後日韓人の勢力が之を駆逐し目下五六名、韓人寺軒、小屋十有之に住居せん外一軒焼失し他、十六軒、小屋の僅かに其形態は存するに過ぎず破壊し殆ど廢屋なり清西國人一人も島内に居住せし不但し早坪の自然の至六月して人工を施すに必要なきのみ従て清西國人の居住に必要なき付此一事を以て直に清西人民の該島より遠去せしむるに早断せるに能は秋の收穫時期に大早坪發表せるに信現任、韓民の難多手り空し該島を以て早坪に留るるに任事土地改良善其他利用、早坪に留るるに信

本年夏期、陸島一部分ヲ開拓シテ水田又ニ芥菜圃
ト爲シ一面野島漁民ヲ移住セシメト、小官、計畫画、小官
ノ使役セシメ田圃ヲ治部ト一進ノ岸ト其間ノ事業ト
シテ亦者、向ニ文滙、其ノ進ノ岸ト其間ノ事業ト
ハニ先子今四林園、政交アリテ一進ノ岸ト其間ノ事業ト
一時放棄シタガ爲メ、治部ノ岸ト其間ノ事業ト
ハ未ダ何カ分有ルベシモ、サキ治部ノ岸ト

世島草平島地勢

島、面積、大沼、十四五箇所、至ニ可歩如、鴨沼江、航リ
シヨ、島、深小路ヲ横ニテ林園、大陸、對シ、其間ノ
清田大陸、接近シテ存在シ其間狭隘ニシテ且ツ
淺キ小路、此、岸ト島、向、流、水道、現
状、於、航、カ、往、時、航、得、ヘキモノニシ

テ都テ林園ト島ト間ニ水道ハ航リ、不便ナリ
レヤ、知、カ、ラ、ス、ト、想、像、ヲ、画、キ、付、ル、ニ、過、キ、ス、又、此、島、ハ
林園、岸、而、老、部、ハ、江、最、深、水路、岸、心
流、後、以、テ、漸、次、消、滅、ス、ト、同、時、清、田、岸、而、老
部、ハ、其、水路、漸、次、消、滅、ス、増、大、シ、テ、若、干
年月、後、或、ハ、終、水、路、全、消、滅、シ、テ、清、田、岸、接
壤、ス、時、又、島、上、端、ハ、急、流、ニ、成、ル、以、テ、漸
次、削、滅、セ、ル、モ、下、端、ハ、歳、月、ト、共、増、加、シ、林、園、岸、ハ、向
向、走、テ、終、新、島、列、島、ニ、附、着、セ、ル、淺、洲、ト、接、壤
ス、傾、向、了、則、子、親、今、於、世、島、草、平、呼、下、端、ニ、就
突、浦、突、出、セ、ル、呼、下、端、ト、鴨、沼、江、ハ、折、ル
於、形、勝、地、ハ、ニ、サ、ラ、バ、親、生、於、此、之、が、一、部
分、ト、モ、古、俗、ノ、實、ヲ、傳、承、シ、カ、サ、レ、ル、將、未、杜、新、自、島

方面に延長セントシタル淺河が漸次隆起を噴
き出シ我々の於て収容するに當りはコト困難を依
り以陰是非並草早の全部若くは一部ヲ占領シ
置るハ必須不可欠の情態を有す

清韓西國外交上の主張

韓西側主張の要點

本問題の關するは清韓西國の交渉問題ヲ提記シ名
ハ光緒廿六年即チ光武四年に叙す韓國側主
張の要點ハ黃草坪の從來韓西の牧場と用志
公地とシテ自王室の所有に屬シ其地を毎年
草場稅二萬兩の納む規定トナリ居ルは清國人が
侵入シテサ戸ヲ列リ居ルモノニシテ清國の主張スル
地畧カ有ストカ納稅シテトカ問題ハ正當

在安東日本領事館

取庸の材料トス足ラス且ソ該島ハ新島
の屬島ニシテ新島の主權廢棄年向に於て清國
自皇帝が朝鮮の領土ト認メシ後以來
ナレバ其草坪の言フ迄モテ韓西の領土ト云フ
ニ非ス

清國側主張の要點

黃草坪ハ對山守安民山に居住する王壽山ナ
ル者光緒十九年其族自島に於て其草坪の草
坪に於て二十二年道台より二十三年奉天將軍
より其地其地畧カ之を交附セシ租稅ヲ納ムルモノ
ニシテ固ヨリ法領地ナルモノト云フ迄モテ其地
下流西南隅の一部ハ清人カ地畧カ交領
手續ヲ怠ル居ルモノト云フ韓人ハ在安東

レタルモノナリト云フニ事ヲ

尚ホ昨冬紛争甚起以來小官ト事地道
台ト交渉ハ最初清韓兩國民共ニ其故昔年ハ
川所ヨリ中止静止状態ニ維持スルヲ約シタリ
モ清國人ハ終ニ約束ヲ破リテ川所ヨリ信守シタリ
以テ我ハ強カク用テ清人ヨリ信守シタリ
大我ニ於テ其故昔年外間ニ輸送シ徐々ニ昔年
案トシテ其故昔年共同保管ノ弱ヲ立テ今日ニ至
リレ次々事ナリ
之ヲ要スル双方ノ主張ハ其相違ハ甚弱ニシテ
止事不属ヲ立テ済ムルモナリ

島心見

小官^當初、島見昂チ此際、該島所屬問題

在東東日本領事館

タ國際談判、移スルハ韓不占有、事言ナキハ
ノ韓不、不利無歸、在ヨリ毎年昔年不収獲
期、於テ昔年奪セシメ、漸次韓民ヲ移住シ開
拓シテ島中、状況ヲ変化セシメ、占有事言、明
瞭ニシテ該國際交渉ヲ開始スルハ代理公使
派、法意見見、其案キ此際、勘定ヲ試ムルカ或ハ
過般、知テ、准テ清西國人、利益分配、
暫行約言ヲ法ト一面、島、於テ利益無關係ヲ
多大ナラシムルカ、我地昔年華國ナラシムル上、信
島、カ、一、標、ヲ、得、案、ト、存、在
然、過般、道台ト小官、向、極メタル方法、事
奪、結果、韓國側、優、勢、ナリ、シ、メ、清、國、ノ

利益ヲ掩護スルノ已ラザル得ガ姑息的ノ清國
側ヲ主張セシモノニテ到底平穩ノ手段於テ如
此決定ヨリ後訂立不能見込有之其間
果シテ公使ヲ於テ會期ニ際テ清國ノ提議ヲ拒絶
ス、口実幸々苦シシ、次第ニ一應其提議ヲ完
レ形式的ノ會勦ヲ成シ於テ人正島ヲ糾集スル
主眼ノ根據地ヲ弱カ故、此等初ヲ歴史的及地
理上ノ研究ニ重クシカス双方ノ主張根據曖昧
トシテ乘シ密ニ根據ノ強弱論ヲ止メテ折衷的
割ヲ主張シ居テ清國ノ承諾ヲ得テ該島
ヲ西斷ス小流ヲ下一部ヲ韓國領トシテ確保ス
ル今後漸次韓國領ノ方向ニ増加スベキ事
ト出推ハ當外韓國ノ歸屬スベキ事鴨綠江

在安東日本領事館

口ハ全然韓國ノ於テ之ヲ拒否スル事ヲ付ル付我
於テ五條條約ノ中止ニ事子取獲、事子奪得
繼續シ、一面利益關係ヲ多端ニ漸次我
地歩ニ華國トシテ待、外々ニ標榜存於尤モ事
々取獲、事子奪得、繼續シ韓國側ニ於テ事子優
勢ノ地位ヲ保ツルヲ得、該島關係ノ清國人民
ニ地上ニ於テ其權利ヲ相与、代價ニ事子奪得
事子奪得、事子奪得、一旦其權利ヲ韓國
人民ニ於テ見取セシムル早、事子奪得、必要ナ
平穩ニ該島占有、事子奪得、事子奪得、有之於
於テ又大小柳草坪、間シテ昔、草坪出張、
序ヨリ是又為念新義州理事、廳公具ヨリ立
寄ラレ、詳細其現状ヲ目撃手セシ、於テ別函

通る地獄カニシテ鴨緑江、最深水路ヲ耕作
 在リ就中清岸と接近シ大橋ノ岸畔ハ韓国
 於テ云ルニ古有ノ家ヲ築ク水田、南極ヲ為シテ
 此島ヲ一小水路ヲ隔テ、韓岸と接近シ小柳草
 畔ハ切テ韓國人、利用スルモ、一人モ生レ清國人カ
 清岸ヨリ来リテ耕作ニ從事シ高田米豆穀ノ
 生産アリ然レモ、理宜ニ船カ出テ、陸岸耕作
 中、清國農夫、該島、所有者ヲチキタリニ耕
 人オト答レシテ見レ、其所有者ト耕作者ト、向テ
 貸借關係アリト認メ之ヲ（此島未詳如ク）
 神々（）ニ付テ清國政府ニ於テ其思ハ早畔會勘
 ト同時ニ柳草畔、會勘ヲ請求スル下ルモ此島
 於テ我ニ於テ云ルニ、利益アリト信ス

在安東日本領事館

右票中改註

明治四十年八月一日

在安東

領事岡部三郎



外務大臣子爵野村重廣

追テ本信寫阿部駐清代理公使及便官上
 副理事官トシテ送ルニモ進達致事

皇太子御成婚御慶賀

横濱支社 明治三十三年

黄字採石歌 三巻三十一号

本正歌三巻三十一号六月五日付横濱支社九号
半野清阿部代理三巻三十一号見字申す致す儀
ハハ訓示三巻三十一号新築御慶賀御慶賀御慶賀
中派セシメる旨旨下實際ハ事情及地勢等上頭
見セシ種々本量ノ末左ノ通り馬目上申致す

黄字採石島ノ現状

昨冬年奪ノ目的ナリシ葦子ニ過船報告ノ通り
道台ト小官ノ協定ニ基キ精清ニ委託人ナリ代書者
ラ出シ御存ノ葦子ヲ刈取リ善却シ終リ今ノ日ノ本
年ノ葦子茂生シ今島ヲ掩フ

外務省

復寫

島の... 葦子... 採石... 黄字... 明治三十三年... 横濱支社... 黄字採石歌... 三巻三十一号... 本正歌... 半野清阿部代理... 三巻三十一号見字申す致す儀... ハハ訓示... 三巻三十一号新築御慶賀御慶賀御慶賀... 中派セシメる旨旨下實際ハ事情及地勢等上頭... 見セシ種々本量ノ末左ノ通り馬目上申致す... 昨冬年奪ノ目的ナリシ葦子ニ過船報告ノ通り... 道台ト小官ノ協定ニ基キ精清ニ委託人ナリ代書者... ラ出シ御存ノ葦子ヲ刈取リ善却シ終リ今ノ日ノ本... 年ノ葦子茂生シ今島ヲ掩フ... 島の... 葦子... 採石... 黄字... 明治三十三年... 横濱支社... 黄字採石歌... 三巻三十一号... 本正歌... 半野清阿部代理... 三巻三十一号見字申す致す儀... ハハ訓示... 三巻三十一号新築御慶賀御慶賀御慶賀... 中派セシメる旨旨下實際ハ事情及地勢等上頭... 見セシ種々本量ノ末左ノ通り馬目上申致す... 昨冬年奪ノ目的ナリシ葦子ニ過船報告ノ通り... 道台ト小官ノ協定ニ基キ精清ニ委託人ナリ代書者... ラ出シ御存ノ葦子ヲ刈取リ善却シ終リ今ノ日ノ本... 年ノ葦子茂生シ今島ヲ掩フ

本年夏期、淡島の一部は干涸して水田も菜園
ト為し而稀に漁民ヲ招きセシムルノ旨、計畫ハ官
ノ使役先業四縣以申ト進言ト共曰ク業ト
シテ亦ある旨ニ云候ノ旨ヲ進メ奉ルニ此島ノ旨ニ
ハシテ今今四縣國ノ政変アリテ進言ハ此方面ノ事
一時放棄シテ先業ヲ得テ遂ニ行テ其計畫
ハ事ノ何等者ニセシモノナリナリ

黄子坪島ノ地勢

島ノ南端ハ大泊ノ所アリ至之所ホニテ別國ニ示スル
鴨深江ノ船ヲ停メ最深ノ路ヲ捷ニテ拂出ス大陸ニ對シ著
シク清シ大陸ニ接シテ存スル其字校陸ニテ且
浅キ不陸アリテ此清島ノ島ノ旨、流ル水道ニ現
状ニ於テ航行ノ便ナクニ此所ニ航行ノ便ナクニ

外務省

テ却テ稀峯ト島トノ旨ニ水道ハ航行ノ不便ナ
レヤニ知ル一カラストノ想係ニ置キ得ニ過キス又此島ノ
稀峯ニ而先部ハ河最深ノ路ニ有リ急
流ニ流ルルニテ洲次清減スル時清峯ニ而
部ハ其水路漸ク浅ク漸次島ハ増大ニテ若干
年月内迄ニ或ハ此水路ニ清減ニテ清峯ニ接
接スル時ニ又島上端ハ急流ニ流ルルニテ洲
次洲減セシメ下端ニ増大ニテ稀峯ノ方
向ニテ流ルルニテ島ノ旨ニ洲次ニ接シ
テ他向アリテ助ケ現ナクニ於テ黄子坪ノ下
端ニ流ルルニテ實ニ此島ノ旨ニ洲次ニ接シ
テ形勝ノ地ナルニテ其記述ニ於テ此島ノ旨
分ナリトモ其領ノ實ニ其島ノ旨ニ洲次ニ接シ

方面、延長セシメテ、淺河カ、漸ク陸地ニ成
ミ、之ヲ成シ、於テ收容スル、以テ、固シク、
此際、是レ、黄子ノ、全部、著ク、一部、
置ク、必須、不可、情勢、ニ、依リ

清韓両公以交片ノ主張

韓公例ニ張ノ要點

本國、然ルニ、黄子、法、韓、有、必、ノ、交、片、可、懸、ヲ、
完、結、セ、六、年、内、ニ、
張ノ、要、點、ハ、
公、地、ニ、テ、
蘆、
侵、入、シ、テ、
地、事、ヲ、
外、務、省

所、有、ノ、材、料、ハ、
ノ、
皇、帝、ヲ、
黄、子、校、ハ、

法公例ニ張ノ要點

黄子、
ハ、
付、
リ、
こ、
下、
手、

レタハモノナリト云フニキリ

為ホ昨冬紛争年蓋初以耳少皆ト当地道
官ノ交渉ハ最初清韓ヲ主ト共ニ散華ヲ
以テラ中止シ静止ノ状態ヲ維持スルコトヲ約シ
モ清必人ハ終ニ約束ヲ破ラズルコトヲ以テ事ヲ
學校ハ強カク用テ清人ヲ該島ヨリ驅逐シ一時
大ニ我々ヲ散華共ニ保衛ノ約ヲ立テケルコト
素トシテ散華共ニ保衛ノ約ヲ立テケルコト
コトナリ

馬見

小官当初ノ意見即チ此際該島所屬ノ領

外務省

○國際法判ニ依リテハ神主古有ノノノ實ヲ為
ノ神主ノ不利ニ歸スルコトヲ毎季子散獲
期ニ於テ奪取セシメテ海軍神主ヲ領領ニ
托シテ島中ノ状況ヲ善化セシメ古有ノノノ實ヲ
際ニ至ル迄國際法ニ依テテ開始ナルコトハ以テ
是ニ至ル迄國際法ニ依テテ開始ナルコトハ以テ
使ノ意見見ニ基キテ以テ際 勘定ヲ試メ方或ハ
過般ノ協定ニ準シテ神清ヲ以テ人ノ利益ヲ配
習行約定ヲ以テ一而回島ニ於テハ利益ヲ
多大ナルコトカニ於テ地安ヲ以テ國ナラシムル上ニ
助スルコトヲ撰フヲ得策ト存ス
然レニ過般道々ト少者ノ間ニ取極メタル方法ハ
奪ハテ案案神主例ノ優劣ナリシ為メ海軍ノ

利益ヲ接獲スルニ已ラシ得ズ、姑息的ニ清兵
側ノ主張セシモノシテ到底小種ノ子敵ニ於テ如
此協定ヲ令ノ後訂立ス能ク又見返ニヨリ以テ
果シテ以償ニ於テ令助ニ至ル清兵ノ提議ヲ拒絶
スル口實ナキ者シヨリ以テ乃チ一應其提議ヲ容
レ形式的ノ承認ヲナシ、然レテ今島ヲ耕領ナク
之張ノ根柢薄弱ナル故ニ当初ノ提議ニ其史の及地
理上ノ確案ニ至ラザル雙方ノ主張根柢曖昧
ナリ、乘ニ以テ寧ニ根柢ノ脆弱ヲ以テ折衷的ニ
割テ之張ニ着シキ清兵ノ子種ヲ得ル清島
ヲ割テ小流ヲ下ノ一部ヲ耕領スルニシテ確係ス
ルハ、後開港地耕領ノ方向ヲ増カスハ、華年所
至ノ權ニ亦必耕領ニ由ラス、提テ鴨綠江

外務省

口ニ至ル耕領ニ於テ之ヲ拒守スルヲ得ル付、然レ
於テ也、除テ法割ヲ中止シ、華年子種獲ル華年ヲ
建復シ、一而利益莫保シ多端ヲ以テ漸以、然
地歩ノ鞏固トシテ待ツルハ、其種獲ルハ尤モ年
々收獲ル華年存シ建復シ耕領ニ於テ常ニ優
劣ノ地位ヲ保ツルヲ得ルハ、後島莫保シ、清兵人民
ハ地上ニ於テ其權ヲ相奪ルハ、代償ニ至ラズ、却テ
コトヲ欲スニ至ラズ、以テ一旦其權ヲ耕領
人民ヲ耕領スル收メ、上ノ最モ年々存スルハ、必要ナ
キ種ニ後島有ル實ヲ容ルルヲ得ル法有ル者、其
將又、亦小種獲領ニ至ラズ、黃海耕領出張ノ
序ヲ以テ是又、而念計、裁可、理テ、廢棄スル
實ナリ、又、詳細ニ其現状ヲ目録ニセ、又、其、亦、別、圖

、通了地勢ミテ鴨瀨江、最深水路ヲ耕者
ニテ、就中清峯ニ據近者大柳又坪ハ耕者
ニテ、其ノ先ハ古石ノ実ヲ嘗テ水田、其格ヲ為シテ
此島ヨリ一小水路ヲ開テ、耕者ニ據近者ハ小柳又
坪ハ切テ耕者ノノ、此間ニテ一人ニテ、清峯ノ
清峯ヨリ、其ノ耕者ニテ、高梁豆類ノ
產出アリ、此ノ地、理々ノ、應負カセ、張ノ、際、耕作
中、清峯ノ、農夫ニ、渡島ノ、水田者ヲ、テ、キ、テ、此
人々ト、嘗テ、見、テ、其、所、以、者、ト、耕、作、者、カ、百、
頃、倍、々、係、ア、テ、ト、認、メ、テ、也、(此、迄、事、詳、向、前
通、シ、) 其、中、清、峯、政、府、ノ、形、テ、著、者、坪、金、助
ト、同、時、小、柳、又、坪、ノ、金、助、ノ、清、峯、ス、ル、下、ア、テ、此、点
ニ、行、テ、成、テ、水、田、者、ノ、利、益、ア、リ、ト、行、也

外務省

外務省申渡書

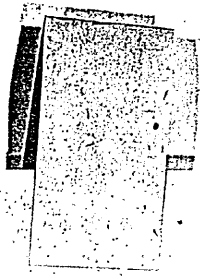
明治三十二年八月一日

在東京

館員 岡部三郎

外務省 岡部三郎

進下地、高野、新島、渡島、此、地、以、外、及、他、處、上
所、記、ノ、官、ノ、テ、流、島、ハ、ニ、進、道、政、府、長



| | | | | | | |
|------------|--|---------------------------|-----------|------------------------|------------------|--------------------------|
| <p>外務省</p> | <p>黄草坪島向院之云云 友宛書面：封入少意之玉 袋申出ラアノレ</p> | <p>第二七号 云云 知事</p> | <p>安東</p> | <p>明治 年 月 日 起草</p> | <p>日發遣</p> | <p>3</p> |
| | | | | <p>明治 年 月 日 發遣</p> | <p>14 10</p> | <p>2035 明治 年 月 日</p> |

REEL No. 1-0369

0546

事務局長
手記

領事
手記

事務
手記

機密 受第168号

明治四十年七月一日接

管政務局

機密 七一號

出
野

件 黄草坪島問題：函スル

機密

本件：函ニ別紙ノ通函部
領事：申送置候間御査
同領事：御回訓ト共：其趣
御来示有之度清國外務部
一回答、都合ニ有之候間及
前請候敬具

明治四十年六月十五日

在清國日本公使館

在清國

臨時代理公使 阿部守太



外務大臣 齋藤實 殿

機密第九號
黃草坪島問題

本件、向てハ、清國官憲ヨリ、國境ノ其
是セラル、迄、現在、残存、葦葦、清
韓、西國人、共同、反、得、ト、他、日、黃草
坪、所、屬、向、題、解決、ノ、曉、之、ヲ、所、屬
對、人民、ノ、所、有、ト、認、ル、コ、ト、ニ、改、度、肯
提、議、有、之、貴、言、之、ヲ、最、モ、平、ナ、リ
ト、シ、テ、承、諾、セ、ラ、シ、今、年、秋、冬、ノ、間、再、心
川、取、季、ノ、至、ル、迄、一、先、紛、争、休、止、ト
為、リ、タ、ル、旨、去、月、三、日、付、ヲ、以、テ、大、臣、

在清國日本公使館

報告ノ趣、今日付、北、機、計、十四、号、告
信、ニ、テ、林、公、使、官、御、申、越、相、向、居、後
者、今、般、別、我、馬、甲、号、ノ、通、外、務、部
ヨリ、照、會、有、之、韓、公、使、ヨリ、建、立、負、テ、
取、テ、清、國、委、員、ト、立、會、也、右、境、界
ヲ、勘、定、シ、テ、以、テ、永、久、ニ、援、累、ノ、根、源
ヲ、絶、ッ、様、取、計、ア、リ、度、旨、請、求、致、未
後、蓋、シ、前、記、貴、官、ヨリ、大、臣、宛、報、
告、ニ、ヨ、シ、ハ、黃、草、坪、所、屬、向、題、ノ、此、際、
急、ニ、國、際、裁判、ニ、移、ス、コ、ト、ハ、同、島、ノ、所
在、ル、韓、公、使、官、ノ、申、實、確、無、ノ、今、日、時、
機、尚、早、ニ、決、ス、ル、カ、故、右、貴、官、ノ、希、望、ス
ル、所、ニ、非、ザ、ル、也、此、次、彼、我、相、定、ニ、ヨ、リ

朝鮮人の、陝陽に在位し一部ノ葭葦
 川に從事し得ル權保セラル
 ニヨリ今夏入りテ更ニ韓國漁民ヲ
 七移住セシメ漸次共有ノ實ヲ與手ガ
 ルコトヲ力メ秋冬ノ期ニ於テ再ビ葭
 葦爭奪ノ活動ヲ開始セシムルノ御意
 現ナリトノコトニ有之候處若シ帝國
 政府ニ於テ該島ノ韓國領ニ歸屬セ
 シムルコトノ絶對的中要ヲ認メ之ガ
 目的ヲ達スルノ希望ヲ有セシムルト假
 定スルモ一面ニ於テ境界立會點定
 向スル清國ノ提議ヲ故ナリ拒絶シ
 十カ一一面ニ於テ年々葭葦川取
 期：年集紛鬪ノ治劇ヲ演じ
 ムルハ頗ル擁護ニ困難ナル方使
 タルハシト思考致サレ候處ハ昇見
 ニテハ我方ニ於テ清國ノ提議ニ應ジ
 テ境界立會點定テ候處ノ全
 部又ハ一部ヲ韓領ニ歸屬セシムル
 コトヲ力ムルカ成ニ此會點ノ時機尚早
 ニシテ我ニ不利益ナリトノ理由アラバ
 相當ノ口實ヲ設ケテ暫ク之を見合セ
 テ清國側ニ求メ其間ハ過般ノ取
 是ニ準ジ清韓両國人ヲシテ年々葭
 葦ヲ刈取ラシメ臺上高ヨリ方銀
 加付スル積金ニ相當ノ割合ニテテ

方、取得ヲ配分スルガ如キ暫行約定
 其間、韓國民ノ移住ヲ奨励シテ同
 島ニ於ケル利益關係ヲ多端ナリシメ
 漸次、我地歩ヲ鞏固ナラシムルノ手後
 ヲ執ルコトハ得策ナルガ故之ヲ行フテ
 可ナリト存候
 實ニ、黃草坪ト併セ大柳坪小柳
 坪等ノ三會勸界ノ義、昨年十二
 月九日別紙ニ号シ、通外務部ヨリ
 照會有之候ハ、其當時ハ貴地ニ於
 ケル交通發展ノ如何ヲ見ニガ爲メ
 何等照復ヲ爲サバ、其後、本年二月
 未成、回春ノ督從アリタレドモ、尚格
 置修處今、取費把ニ於ケル格定ヲ
 根據トシ別紙甲号ノ通り、夏ニ照
 會アリタリ、次第ニ修充セ、照會ハ
 問題ヲ單ニ黃草坪ニ止メ居ルモノハ
 如ク相見一ハ、其清國ノ考が果シテ
 大小柳坪ノ三會勸界ヲ新念シ
 ムルモノナシヤハ、明ナラズ修此点ハ、何レニ
 セヨカリ、黄草坪問題、固シテハ
 先方累次ノ照會ニ對シ、當方ヨリ
 其何トカ回答ヲ要スル義ニ有之候、
 尚貴官ヨリ脚意見ヲ呈シテ、大臣
 ノ回訓ヲ御稟請相成候様、致度

在清國日本領事館

本官より本信馬大臣に呈進し
 請刑可致候而責官より大臣一御
 書出可相成意見書口同時に本官
 二七馬馬馬馬馬馬馬馬馬馬
 又別戎甲号外務部監會中責官
 加在獄、孫田景臺解放、及対え旨
 記載有之候處在、豫う責官より
 播別七ル報告に照う又中ハ威ハ貴
 官に於り而之ヲ繁獄に置り或
 方ノ運動上ノ利益セラル、事情有
 之ニヤト想像被致候一其口實ト
 之得ハキ相為、理由ナキ限リハ
 最卑同人、解放ヲ承諾候方
 在清國駐在公使館
 如ん心ヲ欺ト有、間有様ノ理由
 ナ有セラル、然ラハ地方官、充分
 之ヲ説明セラル又本官ノ参考者
 迄、右等田亦相成候後
 別戎甲乙二通相係在申付候敬
 具

明治四十年六月十五日

在清國駐在公使 阿部住太郎

在安東縣領事 岡部三郎殿

甲号(字)外務部了照會

為照會事光緒三十三年四月二十九日准盛京將軍咨稱據安東開埠局呈前因韓民與日本人侵佔黃草坪葦塘強運葦草一案准外務部咨復業經照會

日本駐京林大臣電致

駐韓統監飭派韓員會勘等因靜待派員會勘乃上年十月初二十二日李毓忠林玉璞等稟報韓人於十月初七十二月十三二十三等日帶領日人佔據葦草持刀逞兇並將十八架高棚

在清國日本領事館

全行釘板據為已有一面僱人搬運葦草當經該局照會駐安日領事會同派員前往查禁不意未及示禁韓人等於委員走後復聚多人強搶不服阻止致該葦草戶孫景堂等將該行搶人綁送來局當經局將被綁人開釋孫景堂等交縣暫押以待高明擬辦嗣准固部領事照會日人大久保身帶銀票壹萬伍千元前往大孤山營業被華人毆縛所帶銀票及韓人身帶英幣壹元伍角並手槍小錶悉被華人取去等語該局與日領事高先將葦草封存或變價存儲兩國人民均不准擅先動用俟勘定界

限再議辦法已經日領允諾會同委員
暫將葦草交華人王長智韓人金鳳紀
二人收管惟葦草孫景壹在押日領不
允保釋韓人又不派員會勘應請再行
照會

日本駐京林大臣電催
駐韓統監知照韓國派員會勘以免
生民久受擾累等因前來查此案曾於
上年十月二十四日本年正月初九日
本部先後照會

林大臣在案迄今未准
照復而韓人亦未派員會勘以致小民
情急滋生事端現既經日本領事官會

在清國日本公使館

同開埠局委員將葦草轄交華韓人等
收管並允諾勘定界限再議辦法具微
公允相應再行照會

貴代辦查照迅即電達
駐韓統監速派韓員會勘以免滋擾而
致睦誼為要須至照會者

大日本代辦欽差全權大臣阿部
光緒二十九年任月初九日

乙字(字) 外務部ヨリ照會

為照會事光緒三十二年十月十八日
准盛京將軍咨稱據安東商埠局呈案
查安東縣界鴨綠江下游甜水溝地方
江心有張灘一塊名曰黃草坪同治年
間有民人姜通雲在該灘西南角栽種
葦草旋被韓人佔種後此灘東北又有
新淤有汪壽山於光緒十六年在東邊
道報領十九年又邀同蔡泉山等合股
出銀裁種葦草二十年經東邊道派員
勘丈計葦塘一萬八千畝給照升課至
二十七年韓民侵佔與訟未決三十年
韓國復派金相鶴來勘時以戰事未與

會勘本年九月二十七日有安民山地
方馬清祿及葦戶李毓忠來向呈稱有
日本入近藤政敬率領多人於二十四
五等日用船裝去葦子五六百箇民等
未敢與較職道即往見日本國部領事
囑其禁止旋准復稱傳問近藤云於去
年與韓人訂立合同經韓政府允許現
已囑令近藤暫且停運一面咨詢韓國
統監府得復再核等語查黃草坪偏近
鴨江右岸地勢於我為長非會勘不
能明定畧限又黃草坪上游有淤出大
小柳坪沙地二段大柳坪久為韓人所
佔小柳坪上年亦被韓民佔去地數十

敵正在督飭清理間適有黃草坪之事
查大小柳坪地勢亦偏近鴨江右岸亦
非會勘不能盡定界限請照會

日本駐京林大臣來電

駐韓伊藤統監飭派韓國地方官會同

查勘等因前來本部查安東縣屬黃草

坪葦灘早經華民領種由中國地方官

勘丈升課在案遠為韓民侵佔未及會

勘丈大小柳坪地段決為韓民所佔正

須清理亟應會勘明確方足以分界限

而清糾葛相應即電致

貴大臣查照派韓員與中國地方官會

同履勘並希

見復可也候至照會者

右照會

大日本國欽差全權大臣林

光緒二十九年拾月貳拾肆日

次官

明治四十年五月十四日起算
同月二十日發達

人事課長
會計課

在東京

密部録事人宛 外以大臣

上海通海全黃草坪
心作遺照一件

四十年五月十四日記録編輯部

外務省

本月二日自會信冲六〇号ヲ以テ
由直市請取承上三浦通海全
黃草坪心作遺照一件
止ムラ得ル事情身遺認
工費由右申進候也
追テ豫覺ハ本人宛直接及
候事以テ添送

文書課長

印

黃草坪心作遺照一件

主任

藤平

印

追分の成金款了るる未信至科、當者
 宛七二七三^英種電信、中七三^英種一、同了るる
^英年十一月十日、常書
 荷書了るる
 荷書付(抄書)及生及次、分書在常書
 常書在、及生及次、分書在常書也

外務省

REEL No. 1-0369

0558